

解答範囲は、解答番号 から までです。

(二) 左の文章は、一八五一年にロンドンで開催された、世界初の万国博覧会についてのものです。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

(吉見俊哉「博覧会の政治学 まなざしの近代」による)

(注) ○プレハブ工法 建築部材を工場生産し、建築現場で組み立てる建築工法。 ○ダゲレオタイプ写真 프랑스の画家ルイ・ジャック・マンデ・ダゲール(一七八七―一八五〇)が発明した写真法によって撮られた写真。銀の板にヨウ素蒸気を当てて生成したヨウ化銀を感光材料とする。 ○デオラマ ミニチュアの人物や物を背景と組み合わせ、ある場面を立体的に表したものである。 ○ネスミスの蒸気ハンマー イギリスの技術者ジェームズ・ネスミス(一八〇八―一八九〇)が発明した、蒸気の利用してハンマーを上下させる機械。金属の成形加工に用いる。 ○ホイットワース ジョセフ・ホイットワース。イギリスの機械技術者。一八〇三―一八八七。 ○遠心ポンプ 渦巻状の羽根車を高速で回転させ、その遠心力で水を送り出すポンプ。渦巻ポンプとも。 ○回転機 版を巻きつ

| |
|-----------|
| 英語 |
| 日本史 |
| 世界史 |
| 政治・経済 |
| 数(文系型) |
| 数(理系型) |
| 物理 |
| 化学 |
| 生物 |
| 正解・正解例 講評 |
| 国語 |

けた円筒と、これを圧しながら回転する円筒との間に印刷紙を通して連続的に印刷する機械。○マコーミックサイラス・ホール・マコーミック。アメリカの発明家。一八〇九～一八八四。○養化石。海鳥などの糞が堆積し固まったもの。肥料の原料となる。○マトン肉。羊の肉。マトンとも。○大糞。タデ科の多年草。○蛭。蛭類に属する環形動物の総称。池沼・水田・森林や海にすみ、他の動物の体表に付着して吸血する。○放血。体から血液を抜くこと。○ランカシャー。イギリスのイングランド西北部にある地方。○ガジェット。ちよつとした小物。気のきいた小道具。○シベルプッシュ。ヴォルフガング・シヴェルプッシュ。ドイツの思想家。一九四一～二〇二三。○タプロール。絵画作品。ふつう額縁に入ったものをいう。○ラスキン。ジョン・ラスキン。イギリスの美術・社会批評家。旅行者の見る景色の変化の少なさをゆえに、鉄道出現以前の伝統的な旅はより快適であったと述べた。一八一九～一九〇〇。○パノラマ。半円形の背景画の前に草木や人形などを配し、照明によって広い実景を見るような感じを与える装置。

問一 傍線部⑦～⑩にあたる漢字を、次の各群のうちから一つずつ選びなさい。

解答番号 1 4

- ⑦ コジ ① 誇
④ 呼 ② 己
③ 固 ③ 快
① ④ 会
- ⑧ メイカイ ① 界
④ 会 ② 開
③ 快 ③ 採

- ⑨ ジンエン ① 縁
④ 演 ② 援
③ 宴 ③ 最
② ④ 祭
- ⑩ サイテン ① 催
④ 祭 ② 採
③ 最 ③ 採

問二 空欄AとBを補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 5

- ① A 試行錯誤 B 鬱蒼
② A 二者択一 B 殺伐
③ A 取捨選択 B 整然
④ A 切磋琢磨 B 確固

問三 傍線部①「こうした統一の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 6

- ① 水晶宮内の展示が、新時代の産業機械を伝統的な宗教信仰の中に取り込もうとしているという点でまともな状態
② 水晶宮内の展示が、新しい産業機械を取り替えてテクノロジーへの希望を表現しているという点でまともな状態
③ 水晶宮内の展示が、さまざまな商品を用いて人々に機械産業の歴史を説明しているという点でまともな状態
④ 水晶宮内の展示が、あらゆる種類の物品を集めることで見物人を圧倒しようとしているという点でまともな状態

問四 傍線部②「渾然とした商品たちの饗宴」とありますが、そこに含まれていた具体的な商品について説明したものと、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 7

- ① 新たな産業を象徴する石灰は、目新しいが過去の遺物に過ぎない養化石よりも、会場を訪れた人々を惹きつけた。
② 原材料部門の食品類では、マトン肉の入った缶詰が、博物学の新しい可能性を示す物品として展示された。
③ 機械部門に含まれる展示品はきわめて多様であり、乳房膨張装置や放血装置といった当時の医療の装置も含まれていた。
④ 工業製品部門の雑貨類には、烏籠や傘、スポーツマンナイフといった実用性に富んだ商品が主に展示された。

問五 傍線部③「実用機械もまた不恰好に大きなガジェットに見えた」を説明したものと、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 8

- ① 産業のために役立つ存在である機械が、会場内に溢れる興味深い小道具の一つのように見えたということ。
② 日常的な実用性に特化して作られたはずの機械が、まるで無用の長物であるかのように見えたということ。
③ 実用機械が本来有している外観の奇抜さが、他の小物と比べてもことさらに際立って見えたということ。
④ 希少な存在である産業機械が、他の出品物と同じく、有用だがありふれた道具のように見えたということ。

問六 傍線部④「水晶宮の神話作用」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 9

- ① ガラスを多用した明るく開放的な構築物の内部に、商業的な価値が高いと認められる品物のみを選びとって展示し、神々しいまでに洗練された空間を作り上げるといふ作用。
② あえて日常の商品を展示に混在させることによって、工業製品の持つ非日常性をより強調して示し、現実の世界とは隔たった神秘的な空間を見物人のために提供するという作用。
③ 互いに相容れないと考えられていた自然と文化を融合させた多様な商品を、同じ空間に置くことで、対照的なものが混在する無秩序こそが目指すべき世界であることを証明するという作用。
④ 膨大な量の工業製品を集めて展示することで、そこに並ぶ商品を、単に使用されるだけのものではなく、近代産業が産み出す輝かしい世界を構成する存在として価値づけるといふ作用。

問七 傍線部⑤「鉄道の速度は…：旅人を分つのである」について説明したものと、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 10

- ① 鉄道は絶えず高速で動き続けているため、それに乗って移動する旅人は、鉄道の外に存在しているものの一つ一つをしっかりと知覚することが困難になりかねないということ。
- ② 高速で走る鉄道の車窓から見る風景はまるで絵画のように美しいため、それに乗って移動する旅人は、自身がその風景の中に入っているところを想像できなくなるということ。
- ③ 従来の移動速度に比べて鉄道はあまりに高速で動くため、それに乗って移動する旅人は、もはや通り抜ける景色の中に自身が存在しているという実感を持ってなくなるとのこと。
- ④ 鉄道というものは非常に高速で動く装置であるため、それに乗って移動する旅人は、この装置の外部にある世界がすっかり消え失せてしまったと感じるようになるということ。

問八 傍線部⑥「水晶宮もまさに…：『表』の空間にはかならなかった」について説明したものと、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 11

- ① 水晶宮の内部では、見物人は展示品と同一空間に属することなく、動きながら展示品を見つめるしかないということ。
- ② 水晶宮の中には、あまりに多くの商品が氾濫しており、見物人は圧倒されて普段とおりになるまえないということ。
- ③ 水晶宮という場は、極めて広大で非日常的な空間であり、見物人には作りものの世界のように感じられるということ。
- ④ 水晶宮において、見物人は展示品に対する好奇心をかき立てられ、細部に至るまで観察してしまうということ。

問九 この文章の内容に明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 12

- ① ロンドン万国博についての論評記事の多くは、出品物の中でもとりわけ産業機械に関心を示した。
- ② 水晶宮には、現実的なものと非現実的なものがそれぞれ集められ、別々に展示されていた。
- ③ 水晶宮の内部に並べられた商品は不統一であったが、そこには一つの世界が呈示されていた。
- ④ ロンドン万国博の会場では、見物人が展示品に触れることも購入することも許されていなかった。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文中の傍点は原文についているものです。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

(注) (石井美保「めぐりながれるもの人類学」による)

○存在論的転回Ⅱ ○○年代の人類学において唱えられた研究の方向性。自然と人間と非人間といった二項対立を超えて、存在の生成という観点から多様な世界を分析する試み。 ○共約可能性Ⅱ異なる価値や論理に共通の尺度を見いだすこと。 ○木村敏Ⅱ日本の精神科医・精神病理学者。「あいだ」という観点から独自の自己論や人間論を展開。一九二一～二〇二二。 ○現勢態／潜勢態Ⅱ古代ギリシアの哲学者アリストテレスの概念であるエネルギーとデュナミスに由来する。現勢態は、潜勢態が現実化した状態を指し、潜勢態は現実化する以前の力を指す。 ○追川尚子Ⅱ日本の写真家。また飲食店の経営も行っている。 ○エーデルビルスⅡビールの種類。

問一 傍線部①「自分の中の他者」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 13

- ① 海外や異文化のなかで長年暮らすことではじめて見えてくる、自分の国の文化の良い部分や伝統の大切さ。
- ② 異文化に対する些細な違和感を言語化することで徐々に浮かび上がってくる、隠されていた自分の本質。
- ③ 異文化と出会い、自らの文化の「あたりまえ」が普遍的ではないと気がつくことで見えてくる新たな自分。
- ④ 時間をかけて異文化に馴染み、自分が変わっていくなかではじめて気がつく、変わることにない自分の属性。

問二 傍線部②「でも」とありますが、この表現に込められた筆者の考えを説明したものととして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 14

- ① 学生の感じた社会の「普通」とのズレと、人類学が問題にしてきた「私たちの社会」と「彼らの社会」の差異とは、異なる面があるにしても、異なる面もあるのではないかとということ。
- ② 学生の感じた社会の「普通」とのズレも、人類学が提示してきた文化の違いや異文化のなかでの自己の変化も、ともに「違い」の捉え方として不十分な面があるのではないかとということ。
- ③ 人類学的なフィールドワークにおいて、自分をとりまく「普通」からのズレを出発点に考えることは重要なことであるが、それだけでは人類学としては不十分ではないかということ。
- ④ 筆者の感じてきた「世の中のしくみ」に対する違和感と、学生が感じている違和感とはよく似ているが、人類学的な観点から見ると、両者には違いがあるのではないかとということ。

問三 傍線部③「合理性論争」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 15

- ① 妖術や呪術、精霊憑依といった現象を、非合理的で存在しないと否定する立場の人類学者と、そうした現象が存在するかどうかを科学的かつ文化的な観点から丁寧に検討すべきだと主張する相対論者の論争。
- ② 妖術や呪術、精霊憑依といった現象を、近代西洋的な思考を基準に非合理的であると否定する立場の人類学者と、近代西洋的な思考から考えてもそれらは合理的でありうるとする相対論者の論争。
- ③ 妖術や呪術、精霊憑依といった現象の存在を科学的に検討すべきという立場の人類学者と、それが実在するかどうかは問題ではなく、むしろ合理的かどうかを問題にすべきだという相対論者との論争。
- ④ 妖術や呪術、精霊憑依といった現象を捉える際に、なにがしかの合理的な判断基準が必要とする人類学者と、近代西洋的な思考によってこれらの現象を捉えるべきではないとする相対論者との論争。

問四 空欄 A、C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 16

- ① A 現実的なもの B 超えようのない差異 C その現実世界
- ② A 実在するもの B 根本的な同質性 C 妖術や精霊の世界
- ③ A 科学的なもの B 些細なズレ C 「彼ら」の世界
- ④ A 実在しないもの B わずかな交錯 C 潜在的な世界

問五 傍線部④「われわれのR」には含まれない現象を、「彼らのR」における実在として認めようとする」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 17

- ① 社会的に共有された現実世界としてのRは、「われわれ」と「彼ら」で異なっており、妖術や精霊はわれわれにとっては実在しないが、彼らにとっては実在すると考えるということ。
- ② 社会的な概念、感覚、実践などから作り出されるRは、現実世界とは異なる空想的な世界であり、そこでは科学的な認識は必ずしも通用するわけではないことを前提にすること。
- ③ 独特の歴史や機構を持つ、安定した基底的な世界としてのRを、「われわれ」と「彼ら」の世界の共約可能性を基礎づけるものとして捉え、これによって妖術や精霊を説明すること。
- ④ 人びとが生きる存在論的世界としてのRは、「われわれ」にとっても「彼ら」にとっても、違和感を生じさせるものであり、妖術や精霊を、その違和感の帰結として捉えるということ。

問六 傍線部⑤「木村敏による考察」とありますが、筆者はそれをどのように理解していますか。最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 18

- ① 経験的な現実としてのリアリティは、身体的で無意識的なアクチュアリティよりも合理的で優れている。
- ② 現実として認識されるリアリティ以前に、アクチュアリティという個別的かつ身体的な現実感が存在する。
- ③ 経験的な現実としてのリアリティと、それ以前のアクチュアリティが対立することで、妖術や精霊憑依が実現する。
- ④ 現実として認識されるリアリティは、不分明で動的なアクチュアリティより行為の現実感を経験させてくれる。

問七 傍線部⑥「自分の感覚と基底的な現実世界とのズレを感じつつ、……Rの安定性をわずかなりとも揺るがせること」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 19

- ① ビールを飲んだ時に目に浮かぶ像について語るように、ゆらぎを是らんだ現実感を表現することで、確固としたものように見える現実世界が、固定されたものではないと示すということ。
- ② エーデルビルスを飲んで、「風が吹いているような」像を見るように、通常とは異なる感覚を持っていたとしても、それは決しておかしいことではないと世間に堂々と訴えるということ。
- ③ 味に形を感じるといふ共感覚は、妖術や精霊と同じで、「私たち」のRにとっては実在しないとしても、異なる現実世界においては、確かな現実感を持って実在することを示すということ。
- ④ 美味しいものを「風が吹いている」ように感じるといった、他の人には理解されない行為の現実感を、工業製品のような「キッチリ」とした形にすることで、世間の常識を問い直すということ。

問八 この文章の内容に明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 20

- ① 左利きの筆者や「色盲」の学生が感じているのは、そのつどやり過ごしたり、調整したりするような、自己と社会の「普通」とのズレである。時に痛みを伴うそうしたズレは、リアリティに先行する行為の現実感とも深く関わっている。
- ② 人類学における「存在論的転回」は、複数の現実世界を前提とする視点を提示することで、妖術や精霊という現象を捉え直そうとした。だが人類学は、生命的な力を伴う行為の現実感に焦点を当ててきたわけではない。
- ③ 「合理性論争」や「存在論的転回」は、個々人のアクチュアリティから現実世界を問うことを怠ってきた。だが、そうした問いへの取り組みは、人々の現実感に寄り添ってきた人類学のみにも可能なものではない。
- ④ 「存在論的転回」において、妖術や精霊などは、「彼ら」の現実世界における実在として把握された。だが、それらの現象を、確固とした実在というより現実以前のゆらぎをもった経験として把握することもできる。

〔三〕左の文章は、『浜松中納言物語』の一節です。日本から遣唐使として唐へ来た二位の中納言は、都から離れた河陽県(現在の中国河南省)で、菊の花を見ていた唐の帝の后と出会い、その美しさに心を奪われます。これを読んで、後の問いに答えなさい。

河陽県の後、今ひとたび見たてまつらまほしき思ひまさされど、さるべきやうなし。思ひわけて、菩提寺といふ寺におはします仏、いみじう験じ給ふといふに、まうで給ひて、「河陽県の後、今ひとたび見たてまつらむ」と念じ給ふ夢に、この寺の僧とおぼゆるもの、いみじうけうらに、たふとげに袈裟きて、

A 今ひと目よそにやは見むこの世にはさすがに深き中の契りぞ

覚めてのち、いかに見えつるならむ、と思ひ合はずべきかたもなき心地するに、そのころ河陽県に、えも言はずいみじきとあり。〔中略〕そのころかしく陰陽師に、忍びてもの問ひ給ふに、いみじうおどろおどろしく占ひ申して、「どこを避りて、いみじうかたきを思ませ給へ」と申したれば、この世は後の御ありきとさすがにやすくて、皇子をば内裏に入れたてまつりて、河陽県をぞ、いみじうかたき御物忌とこめて、つゆばかりも人に知らせず、親しき三人四人ばかりにて、内裏のほど二日ばかり避りて、山陰といふところに、みそかに渡り給ひぬ。

そのころ、二位の中納言 昔このところに住みける王子猷といふ人の、月の明かりける夜、船に乗りつつ遊びし文作りけるところに、ゆかしうてもやし給へるに、月いみじう霞みおもしろきに、花はひとつにはひ合ひたる夜のけしき、たくひなきにも、住み馴れし世の空もかうぞあらむかし、と、今宵の月を見つつ思ひ出で給ふ人もあらむ。内裏の御遊びありし折々、去年の春、かやうに月の明かりし夜、式部卿の宮に参りたりしかば、いみじう別れを惜し給ひて、「西に傾く」とのたまひしその面影、かたがた思ひ出づるに、涙もどじまらず。

あさみどり霞にまがふ月見れば見し夜の空ぞ **X**
ながめ入りつつ、水のほとりに添ひておはすれば、人の家どもところに見ゆ。(中略)

そのほど近く、おもしろき琵琶の声聞こゆ。その音をたづね入り給へば、川にそひたる山のみもなる家の、口惜しからぬ、あてばみたるさまして、造りさしたるけしきなり。人のけしきも見えねば、とかくかまへて、造りさしたるものくま近く寄りて見れば、花いと前近くおもしろきに、月くまなくさし入りて、簾垂捲き上げて、例のことなればうはしき姿にて、縁とおぼしきかたにおりゐて、二三人ある中に弾くなりけり。そのさま、いとけうらなる中に、奥のかたに添ひ臥して、頬杖をつきて、月をつくづくとながめ出でたるに、主なるべし目とどめ見るに、ほのかなるかたはら目の、世に知らずめでたき月かけ、河陽県の後の菊見給ひし夕べのやうに、ふとおぼえたり。うつたへにかくておはすらむと思ひ寄らむやは、たくひあらじと思ひわたるを、かう似たてまつりたる人こそ **Y** と、心もそらに乱れて、さるべきにや、のちの行くさきのたどりもなくなりて、やうやう人静まるほどに入りぬ。

(『浜松中納言物語』による)

- (注) ○さとしあり 河陽県にいる后にお告げがあった。 ○かしこき よく言い当てる。 ○忍びてもの問ひ給ふ 主語は后。 ○山陰 現在の中国浙江省山陰県。 ○王子猷 中国晋代の文人である王羲之の子、王徽之のこと。 ○住み馴れし世の空 自分が住み慣れた日本の空。 ○西に傾く 式部卿の宮の歌一いかにばかり涙にくれて思ひ出でむ西に傾く月を見つつ」を指す。 ○あてばみたる 高貴な。 ○造りさしたる 造りかけて完成していない。 ○例のことなれば いつものことながら。 ○添ひ臥して 調度に寄り添って横になる。 ○うつたへに 決して。 ○さるべきにや とうなるべき前からの因縁なのか。

問一 Aの和歌の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 **21**
- ① もうひと目、遠い所から后を見たいという願いはかなうだろうよ。何と云ってもやはり、この世の二人には深い運命的なつながりがあるのだ。
② 遠い所から、もうひと目だけ后を見ることになるだろうよ。とは言つても、さすがにこの世の二人には運命的なつながりはないのだ。
③ もうひと目、遠い所からではなく近くで后を見ることになるだろうよ。何と云つてもやはり、この世の二人には深い運命的なつながりがあるのだ。
④ 遠い所からでも近い所からでも、ひと目でさえ后を見ることはできないだろうよ。さすがにこの世の二人には運命的なつながりはないのだ。

問二 傍線部①「いかに見えつるならむ」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 **22**
- ① どうしてこのような夢を見たのだろうか。
② どうして仏が見えたのだろうか。
③ 自分是他の人々からどのように見えているのだろうか。
④ どのように河陽県の後に会えばよいのだろうか。

問三 傍線部②「みそかに」の意味として、最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 **23**
- ① やつとのことだ ② こっそりと ③ 心穏やかに ④ 急に

問四 二重傍線部A「文作りける」、イ「ものし給へる」の主語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

- 解答番号 **24**
- ① A 二位の中納言 イ 王子猷
② A 二位の中納言 イ 二位の中納言
③ A 王子猷 イ 王子猷
④ A 王子猷 イ 二位の中納言

問五 空欄 **X** と **Y** を補うのに、最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

- 解答番号 **25**
- ① X いとど恋しき Y ありけれ
② X いとど恋しき Y あらむ
③ X いとど恋しけれ Y ありけれ
④ X いとど恋しけれ Y あらむ

問六 傍線部③「かくておはすらむと思ひ寄らむやは」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① 二位の中納言は、后がこれほど苦勞していらつしやるとは思つてもみなかった。
- ② 菩提寺の僧は、后がこれほど苦勞していらつしやると思つていただろうか。
- ③ 二位の中納言は、后がこのような場所にいらつしやるとは思つてもみなかった。
- ④ 菩提寺の僧は、后がこのような場所にいらつしやると思つていただろうか。

問七 この文章の内容に明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 27

- ① 二位の中納言は、河陽県の後をもう一度拝見したいと思ひ、靈験あらたかであるとされる菩提寺に参詣した。
- ② 河陽県の後には、陰陽師に都にいるのがよいと言われたが、それを無視して、山陰という場所に渡つた。
- ③ 二位の中納言は、霞んで美しい月を見ながら、日本での様々なることを思い出して涙が止まらなくなつた。
- ④ 河陽県の後には、山のもとの造りかけの家の中で、頼杖をついてしみじみと月を見ていた。

問八 『浜松中納言物語』は、平安時代後期に成立した物語です。同じく平安時代後期に成立した作品として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 28

- ① 『十六夜日記』
- ② 『讃岐典侍日記』
- ③ 『大和物語』
- ④ 『保元物語』

| | | | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-------|----------|----------|----|----|----|--------------|----|
| 英語 | 日本史 | 世界史 | 政治・経済 | 数学 (文系型) | 数学 (理系型) | 物理 | 化学 | 生物 | 正解・正解例 講評 | 国語 |
|----|-----|-----|-------|----------|----------|----|----|----|--------------|----|